

エベネゼル緊急基金
出エジプト作戦



EBENEZER
OPERATION EXODUS

イスラエルと ともに立つ時

「主はヤコブをご自分のために選び、イスラエルをご自分の宝として選ばれた。」

詩編 135 篇 4 節



イスラエルとともに立つ

国際



フィリップ・ホームバーグ
Philip Holmberg
国際理事会
議長

私は、10月6日金曜日の朝に、他の理事会のメンバーとともにスウェーデンのヨットエリダを降りました。私たちは皆、カルメルセーリング協会の主要なメンバーの家に、遅めの朝食会に招待されていました。私たちはおいしい食事、スピーチ、音楽、歌などで、楽しいひとときを過ごしました。そして最後に、誰かがステファン船長にハティクバ（イスラエルの国家）をトランペットで演奏してほしいと頼みました。そして私たちもみな立ち上がり、ヘブライ語で一緒に歌いました。

心の奥底に秘めた

ユダヤ教徒の魂が切望するは

眼差し向かう東の地 シオン

二千年の我等の望み

今だ失われず

祖国にて自由を勝ち取らん

シオンの地 そして エルサレム

あるイスラエルの女性が、親切にも私をオリムのためのハイファハウスへ車で送ってくださいました。そこに着くと、私は歓迎され部屋へ案内されました。台所にある冷蔵庫には、私の必要とするすべてのものが備えられてあ

りました。エリダに一週間以上乗っていたので、エアコンやシャワーやふつうのベッドで寝れるということが、本当に感謝でした。

アッカーマンファミリーが私を彼らのシャバットの食事に招いてくれました。そこで私たちは、多くのイスラエルの家族がするように、大きなテーブルを囲んで座り、交わりや食事を楽しみました。そして、感謝と祈りのよい時を過ごしました。そして、エルサレムとイスラエルのために、またイスラエルや国々にいるエベネゼルチームのために、エリダセーリングや、いのちの大路の祈りの旅のために、ともに祈りました。そしてその後に別れを告げました。

次の日10月7日土曜日の朝、私は起きて聖書を読みました。それは毎朝私がまずしていることです。詩編118篇を読み、この驚くべき聖句を思いめぐらしました。

マルクスは私の扉をたたき、私がニュースを見たかどうか聞きました。私は何のことかわからずにいると、彼は、ガザから多くのロケットが撃ち込まれたと言いました。テロリストの中にはイスラエルの中に侵入したものもいるそうです。それで、私たちのその日の計画はキャンセルされました。

ニュースを聞いていると、その状況がいかに深刻かだんだんとわかってきました。その状況とは、国境が何か所も破られていて、テロリストが22の村やガザ付近の町に入り込んできて、イスラエルの歴史において未だかつてない惨事が起こっているのです。



QRコード

さらに最新の情報は、QRコードをスキャンして

Aliyah News や Youtube などでご覧ください。



時

1973年のヨム・キプール戦争の後、50年経った今、イスラエルはイスラエルの国民、子供、若者、女性、年配者、またホロコースト生存者などまで狙った敵によって攻撃されました。そして、無差別に銃で多くの国民が撃たれ、車も家も人が中にある状態で燃やされました。そして多くの人質が取られました。

この何十年もの間で、イスラエルにとって最悪の日でした

このシャバットの朝9時ころ、私たちはエベネゼルのズーム祈り会を開きました。多くの国々の祈りのパートナーたちも参加しました。そしてその日はずっとともに祈りました。

神様はユダヤ人との間に、いのちの契約を結ばれました。モーセを通して神様は語られました。「私は今日、あなたがたに対して天と地を証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいをあなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。…」申命記30章19節

私はアマレク人のことを考えずにはられません。「覚えていなさい。あなたがたがエジプトから出て来たとき、その道中でアマレクがあなたにしたことを。彼らは神を恐れることなく、あなたが疲れて弱っているときに、道であなたに会い、あなたのうしろの落伍者をすべて切り倒したのである。」申命記25章17、18節

ガザから来たテロリストたちは赤ん坊にも乳幼児にも妊婦や高齢の人も無差別に殺したのです。彼らは自分の子供たちを愛する以上にユダヤ人を憎んでいるのです。

ハマンは、エステル記において、ユダヤ人への憎しみを人物として表しています。彼が一人のユダヤ人モルデカイによって蔑まれた時、彼は非常に怒り、ペルシャ王国中にあるユダヤ人をすべて滅ぼすという陰謀を企てました。

このシムハット・トーラー大虐殺にあらわれた悪は、ハマンやアマレクと同じ種類のものであり、神の選びの民であるユダヤ人をターゲットにしています。ある人はこれらの大虐殺の残虐行為を、アインザッツグルペン、ドイツの移動虐殺部隊に似ていると言っています。彼らはソ連の侵略の間に、ユダヤ人を殺す任務が与えられていました。

この悪は、すべての人の目に明らかにされて



います。一般人も政府の指導者も同様に、選択しなければなりません。

今こそ、イスラエルとともに立つ時です。

今こそイスラエルとユダヤ人を支援する時です。

今こそイスラエルの民を慰め強める時です。

そして今こそイスラエルのために祈る時です。

ユダヤ人がアブラハム、イサク、ヤコブの神を求めようになりますように！

「苦しみの中から私は【主】を呼び求めた。【主】は答えて私を広やかな地へ導かれた。」

詩編118篇5節

「【主】に身を避けることは人に信頼するよりも良い。

【主】に身を避けることは君主たちに信頼するよりも良い。」

詩編118篇8、9節

「私は死ぬことなくかえって生きて【主】のみわざを語り上げよう。」

詩編118篇17節

「私はあなたに感謝します。あなたが私に答え私の救いとなられたからです。」

詩編118篇21節

用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。

ユダヤ機関(Jewish Agency):

ユダヤ人の国際的機関。パレスチナにユダヤ人の本拠を設けるというシオニストの計画の対外機関。パレスチナへのユダヤ移民の監督、ユダヤ系経済組織の確立などに努める。

オリム(Olim):

イスラエルに帰還するユダヤ人

クリタ(Klithah)

吸収を意味し、イスラエルに到着したオリムたちの生活を確立させること。ヘブライ語の学び、就職、住居、学校、IDFへの従事など。

右上: ゴルダ・メイア、1973年のヨム・キプール戦争の間の、イスラエル首相



遅延なき退去

ウクライナ



ヤンヤ
Yanya
ウクライナチーム

私たちはオレグと彼の家族に何年も前からアリヤーを励ましてきました。しかし彼らはイスラエルに行くのをためらっていました。そして、オレグの母親だけが引っ越しを決めたのです。しかし悲しいことに、彼女は愛する人たちから離れてイスラエルに一人で住むことができずに、すぐにウクライナに戻って来たのです。

その間に、突然、私たちの国で戦争が始まりました。恐ろしい占拠の後、ウクライナの軍隊が村を解放すると、オレグが電話をかけてきて、オレグの家族はイスラエルへの帰還を希望していることを告げました。彼は、私たちが彼に以前渡したエベネゼルの小冊子を失くしていました。しかし感謝なことに、その地区のヘサドのコーディネーターが私の電話番号を教えてくださいました。

彼と電話で話す中で、私たちはオレグに、これから家族がどのようなことをしていかなければならないかを説明しました。オレグは今すぐにでもアリヤーしたいと主張していましたが、最終的には、戦争中のため今すぐに、ということとは不可能であることを理解しました。電話の会話の途中で、村が攻撃を受けたため、電話が切れました。そして、オレグと家族は地下に避難しなければならませんでした。

その後オレグは、頻繁に起こる激しい爆撃のため、家族は食べ物も飲み物もないまま、何日間も地下に避難していなければならないことがあると言っていました。そして彼らは互いにしがみついて寝ていました。外での爆発音が非常に恐ろしいものだったからです。そして、彼らが水や食べ物を取りに外へ出ると、自分の家の前の道路が以前とは全く違っていました。いくつもの家が完全に破壊されていたからです。

爆撃が激化する中、オレグと家族は近くの村へ避難しました。彼らは書類のすべてを持って15キロ歩いて一番近い村へ行きました。そこで友人の家に避難させてもらいました。その翌日、オレグは電話で、自分の家と車が爆撃で破壊されたことを知りました。

彼らが自分の家に戻って見た時、自分の家が破壊されているのを見て心が痛みました。そして彼らはさらにイスラエルへ帰還したいという願いが強まりました。このようにして、彼らはアリヤーすることになりました。そして、オレグも認めています、エベネゼルから受けた有益で明確な指示があったため、手続きはスムーズにできたということです。

写真 右:ビクトル(エベネゼル運転手)ディミトリ、エレナ、オレグ。

ビクトルが、この家族をモルドバの国境まで車で連れて行きました。





オレグは、続けてこう言いました。「でも、ある人たちがやってきて、家の修理を助けてくれて、私たちの家はほとんど新居のように回復しました。また、軍隊が私たちの町から敵を追い払ってくれました。それで、私たちはどこにも行くべきではないのではないか、と思いました。しかし、私たちの家族でそのことについて話し合った時に、私の母は、私たちはすぐに荷造りしてここを出るべきだと主張したのです。そして、彼女が残り、戦争が終わるまでは家の見張りをすることにしたのです。」

その後、この家族はアリヤーの書類の手続きを始め、無事イスラエルのビザを取得することができました。彼らは、モルドバのチシナウでアリヤーの申請をする事になったので、エベネゼルが彼ら3人とペットの犬をモルドバの国境まで連れて行きました。オレグと犬は、ペットを飼っているオリムが皆そうしているように、ワルシャワ経由でイスラ

エルへ帰還しました。彼の妻エレナと息子のディミトリはチシナウからの団体便で帰還しました。オレグと家族は、ウクライナとモルドバのエベネゼルチームに、すべての支援、励まし、实际的な助け、祈りの支援などに、心から感謝していました。神様が彼らを約束の地において豊かに祝福してくださいますように!

最近アリヤーしたユダヤ人の家族のために、またこれからアリヤーするユダヤ人の家族のためにどうかお祈りください。

「わたしは、彼らを彼らの地に植える。彼らは、わたしが与えたその土地から、もう引き抜かれることはない。——あなたの神、【主】は言われる。」

アモス書9章15節

写真 上:オレグと家族の犬がワルシャワからイスラエルへ飛び立つところ

アリヤーが完了する

バディムと息子のミカエルはウクライナのドネツクに住んでいました。イスラエルへ行く決断はなかなか簡単にはできませんでしたが、ウクライナの戦争が激化していく中、彼らはアリヤーする決断を迫られたのです。

ドネツクのユダヤ機関のコーディネーターのイリナが、彼らのアリヤー申請の手続きの支援を昨年11月にしていました。そして、エベネゼルは、この親子がジョージアのトビリシのホテルへ行くのを助けました。そこで、私は、車椅子を用意して彼らを待ちました。

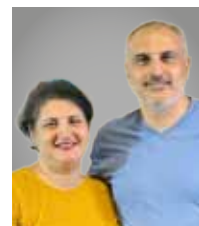
その翌日、私は彼らの書類を、トビリシの内務省と、イスラエル領事館に持って行きました。その何日か後に彼らはその書類を受け取りました。私たちはバディムのために車椅子を用意しました。また、彼のために必要な薬も購入しました。彼らはイスラエルビザを取得し、次のイスラエル行きの飛行機を予約しました。そしてテルアビブ空港行きの便に乗るために彼らを空港へ送りました。

バディムとミカエルは、エベネゼルがしたすべてのケア、支援、励ましにとっても感謝していました。彼らはエベネゼルの支援なしには、自分たちではイスラエルへの

帰還ができなかったと言っていました。主に栄光がありますように!



ジョージア



スラバ&ディアナ
Slava & Diana

写真 右:エベネゼルチームが、バディムのために車椅子を提供しているところ



エリダのセーリング

国際



フィリップ・ホームバーグ
Philip Holmberg
国際理事会
議長

エベネゼルが始まった頃、主の恵みによって、旧ソ連から何千人ものオリムがイスラエルへ帰還する支援をすることができました。そして、オデッサからハイファへの航路が、10年以上の間アリヤーの大路とされました。この航路は2004年に中断されましたが、私たちは、主がいつかまたアリヤーのために船を用いてくださると理解しました。

コロナ禍において、主がまた、船でのアリヤーに私たちの思いを向けさせてくださいました。これからの船でのアリヤーの準備や計画をする時が来たのです。

私たちが、スウェーデンからイスラエルへ行くエリダピルグリム2023セーリングについて知った時、主が、船でのアリヤーの大路のための祈りの旅をするように導いてくださいました。エリダ号のステファン船長は、私たちの参加を歓迎してくれました。また彼は、エベネゼルのとりなし手が何度か船を乗り降りするために、いくつかの場所で停泊してくださいました。

準備が始まりました。私たちは情報を載せたちらしを送り、毎週ズームにより祈り会を行い、船上の祈りのチームと陸の祈りのチームのための通信チャンネルを設けました。祈りのチームメンバーがいくつかのヨーロッパ諸国やイスラエル、シンガポール、アメリカなどから参加しました。2か月間の間に、主はすべてを整えさせてくださったのです。

「【主】は私に答えられた。「幻を板の上に書き記して、確認せよ。これを読む者が急使として走るために。」」ハバクク書2章2節

私たちは、船上で、チーム全員での全体としての罪の告白の祈りを準備しました。

「私たちは自分の罪を告白し、ユダヤ人のためのアリヤーの大路が建てられるための祈りをするために来ました。私たちは、多くのユダヤ人が迫害や貧困を逃れるために船で逃げたことを覚えています。私たちは、彼らの子孫、主に贖われた者たちが、イスラエルに永遠の喜びと歌を持って帰って来ることを願っています。」また、船上で宣言される聖書のことばも選びました。

「海とそこに満ちているものは、鳴りとどろけ。野とそこにあるものは、みな喜び躍れ。」歴代誌16章32節

「あなたの道は海の中。その通り道は大水の中。あなたの足跡を見た者はいませんでした。」

あなたはモーセとアロンの手によってご自分の民を羊の群れのように導かれました。」

詩編77篇19, 20節

主がこの旅を用いて、ご自身の目的を成就させてくださいますように!

写真上: カシュカイシュで、祈りのバトンを渡す:(左から右へ):
エリック(シンガポール)、サミュエル(シンガポール)、ロバート(オランダ)、フィリップ(イギリス)
下(左から右へ):ジブラルタルの近くで祈る、スウェーデンのホノ港についたエリダ号、イギリス海峡を渡る場所



神の民とともに立つ

「アウシュビッツは空から降ってきたのではなく、忍び寄って来て、じりじりと近づいて来て、遂にはここで起こったことが始まったのです。」

マリアン・トゥルスキー アウシュビッツ・ビルケナウ収容所の生存者

アウシュビッツや他のホロコースト博物館を訪れるときに、このように質問したくなるかもしれません。「一体これはどのようにして起こったのだろうか?」しかし、アウシュビッツ・ビルケナウの解放 75 周年記念の時のマリアン・トゥルスキーのスピーチで彼が言っていたのは、反ユダヤ主義は、ヘイトスピーチが徐々に日常化する中、また陰謀論の導入などを通して、ゆっくりとしたペースで社会に入り込んで行ったのです。2023年10月7日は、ホロコースト以来、最大規模のユダヤ人殺害が起こった日です。ユダヤ人というだけで罪のないイスラエル人たちが殺されたのです。

イスラエルで戦争が始まってから、語り口が変化してきました。残念なことに、ソーシャルメディアの場では、反ユダヤ主義がアルゴリズム的に拡大され、若い人たちが影響力のある人たちの思いに届きました。反イスラエル、または、反ユダヤのデモが私たちの町々でも起こっている今、私たちは再び決断を迫られています。沈黙しているか、または立ち上がるか、の決断です。ポーランドでの青年修養会では、私たちは、アウシュビッツ強制収容所を訪れる機会がありました。この経験により、私たちは過去から学ぶことの大切さを思い起こすことができました。ホロコーストの記念行事が、学校や政府や国際的な場や家庭でもなされる時、「もう二度と繰り返さない」という言葉が繰り返し語られました。

今、私たちに、言葉を実行に移す機会が与えられています。

ぜひ次のことをお祈りください。

- ✓ 人質にとられたり殺されたり負傷した家族がいるイスラエルの家族のために、慰めが与えられますように。
- ✓ イスラエルで建てられた新しい緊急時の政府とイスラエル国防軍に知恵が与えられますように。
- ✓ すべてのイスラエルの国境と軍情報部が守られますように。
- ✓ 神様が、迫害の中でイスラエルとともに立つ大胆な人々を起こしてくださいように。
- ✓ 「自分の剣によって彼らは地を得たのではなく自分の腕が彼らを救ったのでもありません。ただあなたの右の手あなたの御腕あなたの御顔の光がそうしたのです。あなたが彼らを愛されたからです。神よあなたこそ私の王です。ヤコブの勝利を命じてください。」
- ✓ 神にあって私たちはいつも誇ります。あなたの御名をとこしえにほめたたえます。」
- ✓ 詩編 44 篇 3-4 節、8 節

神にあって私たちはいつも誇ります。あなたの御名をとこしえにほめたたえます。」
詩篇 44 篇 3-4 節、8 節

祈り



ルツ・リンネル
Ruth Linnell
ソーシャルメディアコーディネーター

ENGAGE ISRAEL
Summer 2024

Dates & Price?

In light of the current situation in Israel, the tour dates & price will be confirmed on our website

18-35+ years old?

Spend two weeks with us exploring Israel!

For updates and more information:

www.ebenezer-oe.org/engageisrael

EBENEZER INTERNATIONAL CONFERENCE
Jerusalem 17-22 November 2024

Light in the Darkness
ISAIAH 60:1-2

BOOKING INFORMATION

www.ebenezer-oe.org/events



EBENEZER
OPERATION EXODUS

イスラエルに投資する

新しい所有者の手続きにおいて、
主が道を用意してくださるように
お祈りください

イスラエル



ヨハネス・バルテル
Johannes Barthel
地域コーディネーター



エベネゼル国際リーダーシップは、この購入のためにすべてを主が備えてくださることを信頼し、祈っています。このプロジェクトについて、皆さんへの情報も更新してお知らせしていきます。エベネゼルのYoutubeチャンネルに、8月の特別「アリヤーニュース」エピソードの中で、ハイファハウスのインタビューとレポートをアップロードしました。

「あなたは、どなたの娘さんですか。どうか私に言ってください。あなたの父上の家には、私どもが泊めていただける場所があるでしょうか。」創世記 2 4 章 2 3 節

5年ほど前に、主はエベネゼルのリーダーに、「イスラエルに投資する」というプログラムを始めるように導かれました。その一番目に見える形の実、ハイファにある家を賃貸するという大きな特権でした。その家は、「オリムのためのハイファハウス」として知られています。この場所は、アリヤーしたばかりのオリムたちが、初めて短期滞在する場所として用いられてきました。

最近のミーティングで、イスラエルにいるエベネゼルチームが分かち合ってくれたことは、この1年の間に、何百人ものオリムたちが、ここで人に愛されケアされていると感じたということです。

私たちはマルクスとラヘルに感謝しています。彼らのリーダーシップの元で、ハイファハウスはかなり実際の面で改善されてきています。また、彼らがここを安全であたたかい歓迎の場所にしてくれました。昨年、ジュディスが彼らのサポートをしています。また、さらにたくさんのボランティアたちが、建物の修理やまたは長期滞在して日々の業務の支援などにあたってくれています。

また、このプロジェクトの為に忠実にとりなしてお祈りしてくださったり献金してくださっている方たちのことも、神様に感謝しています。

ハイファハウスが始まって4年が経ち、私たちには新しいチャレンジが訪れました。

というのも、このハイファハウスの土地のオーナーが、この土地を売却することを決めたからです。それでエベネゼル国際リーダーたちで祈ってきましたが、私たちは、この土地を購入することを決めました。そして、すでにこのプロジェクトを知らずに、このハイファハウスのために特別献金をしてくださっている方たちがいます。

特に現在は、イスラエルに帰還するオリムの数が急激に増加しています。ですから、オリムがイスラエルに到着した時にショートステイできる場所として、ここを提供し続けていくつもりです。

今、イスラエルは戦争の中にあり、ホロコースト以来最大のテロ攻撃を受けて苦しんでいます。エベネゼルは、ハイファハウスを、暗闇の中の光の場所として開いておくことを決めています。



Operation Exodus

Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



エベネゼル緊急基金日本支部

〒062-8691 豊平郵便局私書箱 37 号
Tel&Fax: 011-813-3558 (岡田)
paginamaestro@hotmail.com
http://eefj.org
郵便振替 (名称) エベネゼル緊急基金
(番号) 02710-0-55842



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

Operation Exodus (出エジプト作戦) はエベネゼル緊急基金の実際的な働き of 名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく 1991 年に 3 人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた 25 カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。